



全校研究だより

第4号

令和2年9月7日(月)

青森県立青森第二養護学校 研修部

授業者へのインタビュー特集

前回の研究日で視聴することができなかった授業者へのインタビューを「Q&A」でまとめました。(◎の太字の部分は、インタビュアーである文部科学省調査官が授業者の回答をまとめた内容です。)



Q 授業の意図について

A きまりに触れつつ、みんなで使うものを大切にすることを具体的に考え、自分はどうかを自己評価し、振り返る学習。

Q 年間で同じ内容項目について複数回授業を行う場合、そのつながりで意識していること

A 価値理解、多面的に考える、判断や態度化を図るというように、時間ごとにねらいを焦点化して取り組んでいる。
◎**道徳の目標に掲げられている道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を意識して縦につないでいる。**

Q 低学年という発達の段階の子供達に対して指導上、配慮していることは何か。

A 教材やねらいの理解に個人差があるため、事前アンケートや具体物を活用している。体験を入れた導入を織り交ぜる、教材提示で具体物を提示する、黒板シアターやICT機器の活用、体験を振り返りやすくするために思い起こさせる等、具体的に分かりやすい手立てを講じている。



【ICT機器によるアンケート結果の提示】



【具体物の提示や体験を振り返りやすくするための実演】



Q 毎回、限られた時間の中でどのような準備をして授業に臨んでいるか。

A 本時のねらいを確認し、子供達に何を学ばせたいかを明確にし、どういう発問にしたら子供達が考えやすいかを考えている。

Q 教材を提示する際、どのような工夫をしているか。

A 文や習っていない文字を読めない子は、画面を見ながら教師の読み聞かせて理解するが、逆に文字の方が集中できる子もいる。提示方法を複数用意することで、発達の段階に応じて子供達が選べるようにし、話の世界に入りやすいようにしている。



【教師の読み聞かせ】



【プリント(文字)を読む児童(左)とスライド(絵中心)を見る児童(右)】



【絵とともに吹き出しを提示】

Q 道徳科の授業で、ICT 機器をどのように効果的に活用しているか。

A プレゼンテーションや写真、教科書の挿絵を使って教材の提示を行っている。アンケート結果の提示には、プリントを映して活用することもある。ワークシートを映しながら今行っている活動を示すことで、進捗状況を確認する上でも効果的である。

Q 子供の実態をグラフで表すことはあるか。

A 学年が上がると、円グラフや棒グラフでアンケート結果を提示し、傾向を示すようにしている。

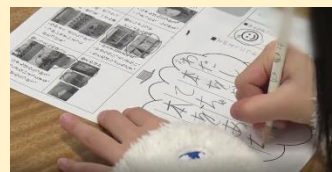
Q 道徳が特別の教科となって授業で意識するようになったことは何か？

A 道徳科の目標に即して価値理解をしていた、多面的・多角的に考えていた、生き方につながるような振り返りをしていた等、学習状況や成長の様子を読み取るためのワークシートや発問を考えるようにしている。

Q 1年生の学習状況を読み取るための工夫は何か？

A 丸を付けて選択する方法、自己評価場面で顔マークを提示する方法、できる児童は答えの理由を考えて書く方法と、ワークシートを段階的に用意する。丸を付ける方法では、いくつか段階を追っていくと整合性があるか把握でき、思考を伴っているかどうか判断できる。

【可能な児童は理由を記入】



◎全員一律を求めず、「できる子」「難しい子」一人一人への配慮があり、今の段階で表現できるようにプリントが作られている。

Q 1年生としての深い学びをどのように考えていたか。

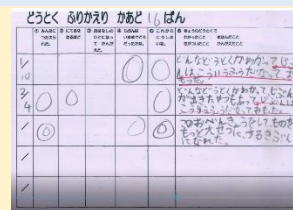
A 本時は【規則の尊重】の中のきまりや約束よりも、みんなで使うものを大切にしようという方に焦点化した内容である。次の人や周りの人のためにという考えが出てきたことが深い学びに近づけたと考えている。低学年は、小さな学びが積み重なることで深い学びが実現されると捉えている。みんなで使う物にはどんな物があり、どうやって使うと良いのか、その理由は何かを考える中で次の人や相手、つまり「みんな」という考えが出てくるのが深い学びと言える捉えている。

Q 学習課題(めあて)を立てて授業に臨む意図は何か？

A めあてを立てる、振り返りを行うというのは、他の授業でも行っている。指導のねらいに沿った形で、子供達の意見を拾いながらめあてを作ることは自分達で考えることになり、課題意識をもちやすいという効果も得られる。子供達は最後に自分を振り返ることを、繰り返しの学習経験の中で分かっている。

Q 授業の振り返りカードの活用の意図は何か？

A なるほどと思った、自分のこれからについて考えた等、道徳科の目標にある「価値理解」や「多面的・多角的」の意図に沿い、子供達にとって分かりやすい言葉を使った様式にしている。特に頑張ったことに丸をつけることで、児童が自己評価するとともに、教師は児童の理解度を量ることができる。感想の欄は自由度が高く、ねらいと異なる内容から深い学びにつながる内容まで書かれており、ここからも理解度を捉えることができる。



【毎時間記入する振り返りカード】

Q 道徳科の子供の評価をどのように工夫しているか？

A 同じ内容項目においてワークシートが効果的であるのに対し、振り返りカードは異なる内容項目でも使用でき、継続して取り組めるため、児童の傾向をつかみやすく、大くくりなまとまりの中の成長を把握しやすい。

Q 低学年の子供の表現の引き出し方の工夫は何か？

A 動作化や役割演技を取り入れた際に、当たった児童以外は「お客さん」の状態になってしまったり、当たらなかったことに執着してしまったりする様子が見られた。そのため、全員で行うこととしてペアでの学習を実施している。
◎低学年ならではの子供の意欲を引き出すさまざまな指導の工夫がなされていた。



【絵カードを活用した表現を引き出す工夫】

Q 道徳科の授業で悩む先生方へのアドバイス

A ねらいがずれていないかを確認しながら授業を行う。例えば自分のことを考える場面で、友達のことを考える発問になっていては【友情】の内容にすり替わってしまう。「今、何をねらうのか」がぶれないよう、事前に教材を読み込み、発問を考える際は指導書を参考にするだけでなく、子供達にとって考えやすい内容かどうか考えていくことが重要である。

◎たくさんの子供のつぶやきがあり、それがさまざまな内容項目に散らばりがちになる中で、押さえたいところをしっかりとって授業に臨むことが重要である。

研究係より

この授業は「ICT」を効果的に活用し、子供が身近な生活を振り返りながら『みんなが使う物』について考えることがポイントです。子供達が自分事として課題を捉え、道徳的価値について考えられるように、事前アンケートの結果が効果的に使用されていたことが分かったと思います。授業映像の視聴を通して、授業づくりの工夫を学ぶと同時に、先生方が既に取り組んでいる授業の工夫を見つけることもできたのではないのでしょうか。日々の実践や今までの研究の成果を土台にしながら、道徳に必要な授業づくりの工夫を全校で共有していきましょう。